あきたしまござえもんぜき

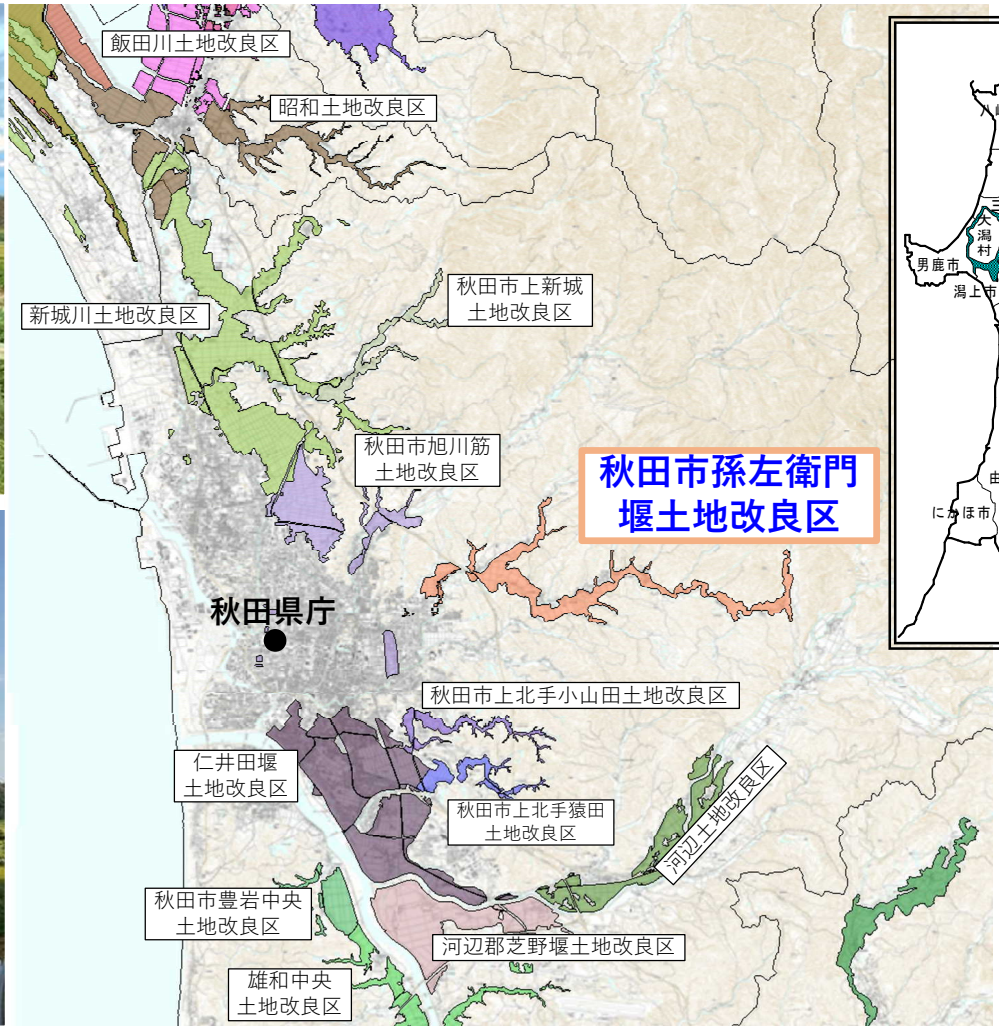
秋田市孫左衛門堰土地改良区

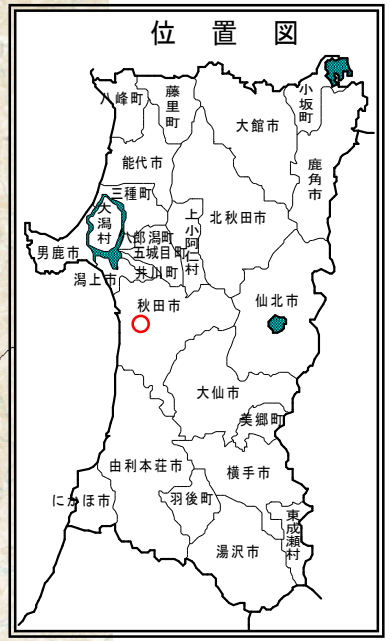
受益面積　468ha

地域の概要

■ 太平山から流れ出る太平川流域を受益とする土地改良区。地区の下流部は１９世紀に鎌田孫左衛門が中心となり開削した「孫左衛門堰」によりかんがいされる。地区の上流部は昭和から平成にかけてほ場整備を実施し、土地改良区に編入した。

太平山と堀内頭首工・孫左衛門堰幹線水路





【内　容】

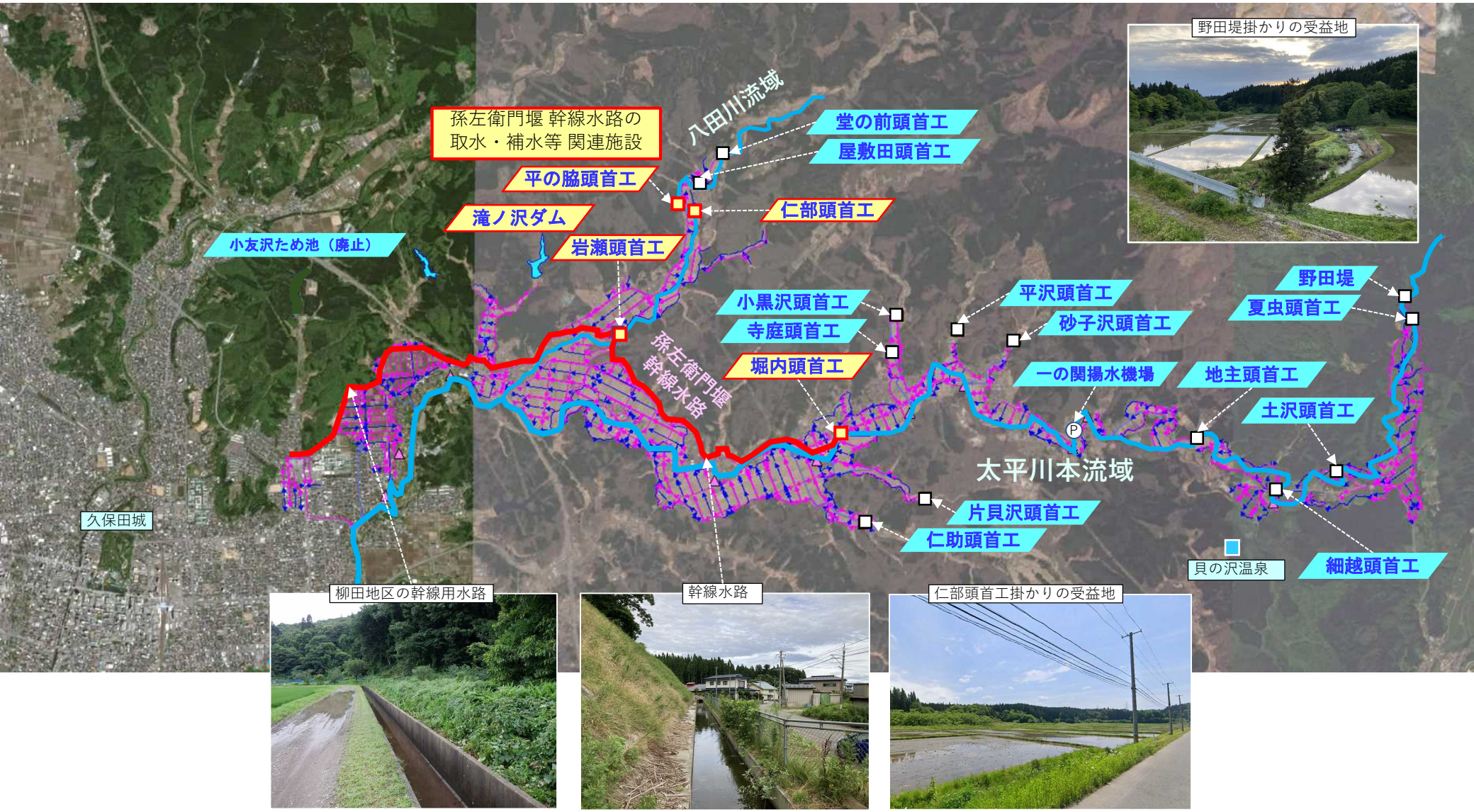
■ 農業水利システム
・主要な取水施設：太平川上流域
・主要な取水施設：八田川上流域・太平川・
八田川中流域（孫左衛門堰関連）

■ 施設の維持保全
■ ほ場整備
■ 地域の歴史

作　成	秋田県 農業農村整備等技術検討委員会 秋田県秋田地域振興局農村整備課
協　力	・秋田市孫左衛門堰土地改良区 ・秋田市 ・秋田県土地改良事業団体連合会
作成経緯	ver. 1.0　令和７年３月
基本凡例	ため池　頭首工　揚水機場　分水工 用水路　河川又は排水路 ※ 資料作成の都合上、必ずしもこれらのとおりの表記となっていない場合がある
出　典	・秋田県水土里情報システムのレイヤを使用したものは次のとおり 地形図：「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R6JHs 74-GISMAP59536号」 航空写真：「© NTT InfraNet, JAXA」 衛星写真：「© NTT InfraNet, Maxar Technologies.」 ・その他土地改良区提供資料など
備　考	本資料は、秋田県の農業を支える基盤であり、地域資源でもある農業水利施設について、土地改良区毎にその構成、歴史、維持管理等の概略を示し、土地改良区の組合員のみならず地域住民の皆様に対し広く周知するものです。 これにより、各地域の農業水利施設を保全管理することの重要性について理解を深めていただき、農業水利施設の持続的な機能発揮と秋田県の農業の発展の一助となることを目指しています。 本資料については、現地調査に加え、水土里情報システム内の資料、過去に実施した事業の資料、土地改良区からの提供資料、土地改良区からの聞き取りなどをベースに作成していることから、時点が古い情報や現状と比較し正確ではない情報が含まれていることがあります。このため、本資料を閲覧される方に置かれましては、このことを予め御了知いただくとともに、本資料を利用すること等により生じるトラブルや損害等については、秋田県ではその責任を負いかねますので、予め了承ください。

農業水利システム　主に頭首工から開水路の幹線水路を通じ用水供給するオーソドックスな構成

- 太平川の堀内頭首工から取水、八田川の岩瀬頭首工等で補水する孫左衛門堰が最大の水路。
- 他に太平川・八田川に点在する取水施設は、各々独立した受益を有する。



主要な取水施設

太平川上流域は地元管理の取水施設であり、固定堰が占める割合が多い。

太平川上流域

土地改良区からの操作委託なし

太平川本流より取水

野田堤

夏虫頭首工

土沢頭首工

細越頭首工

地主頭首工

一の関揚水機場

砂子沢頭首工

平沢頭首工

沢からの取水

小黒沢頭首工

寺庭頭首工

片貝沢頭首工

仁助頭首工

主要な取水施設

孫左衛門堰の主要取水施設である堀内頭首工は転倒堰形式

八田川上流域

土地改良区からの操作委託なし

堂の前頭首工

屋敷田頭首工

太平川・八田川中流域（孫左衛門堰関連）

土地改良区から地元農家に操作委託

堀内頭首工　太平川より取水

平の脇頭首工

仁部頭首工

岩瀬頭首工

その他施設

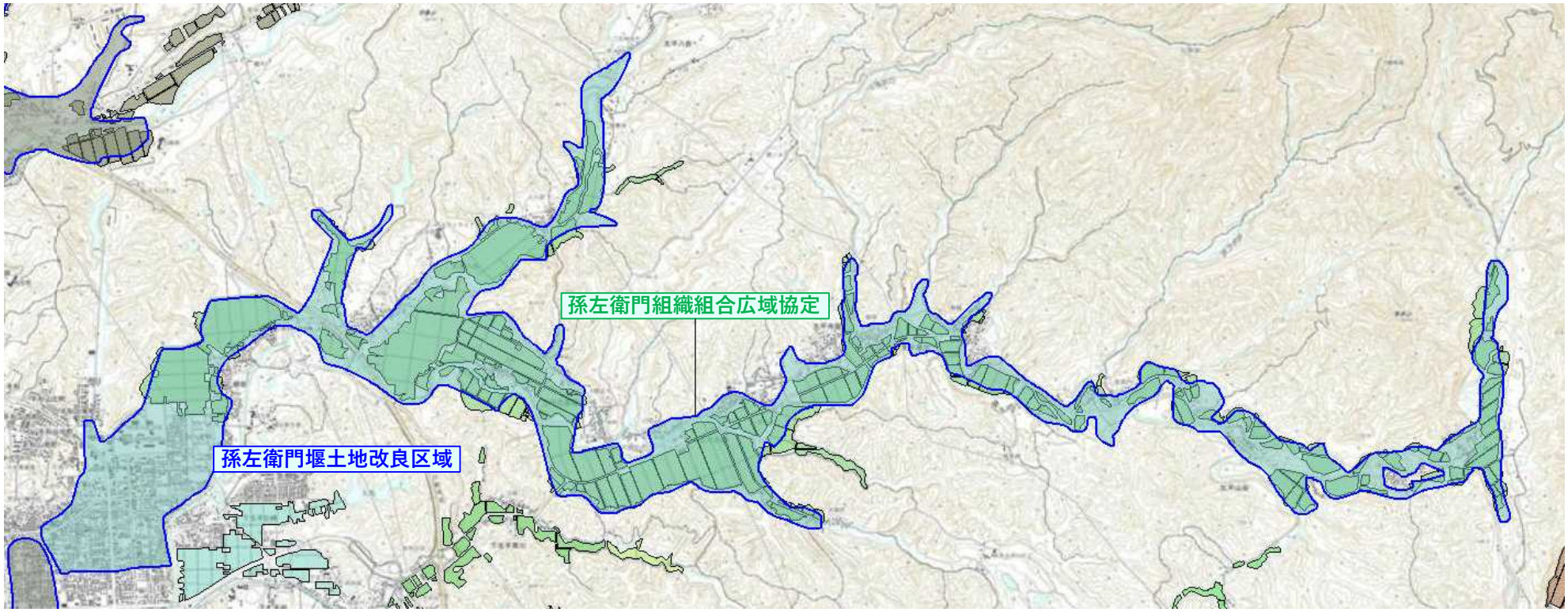
滝ノ沢ダム

滝ノ沢ダム横の沢の堰上ゲート

小友沢ため池（廃止）

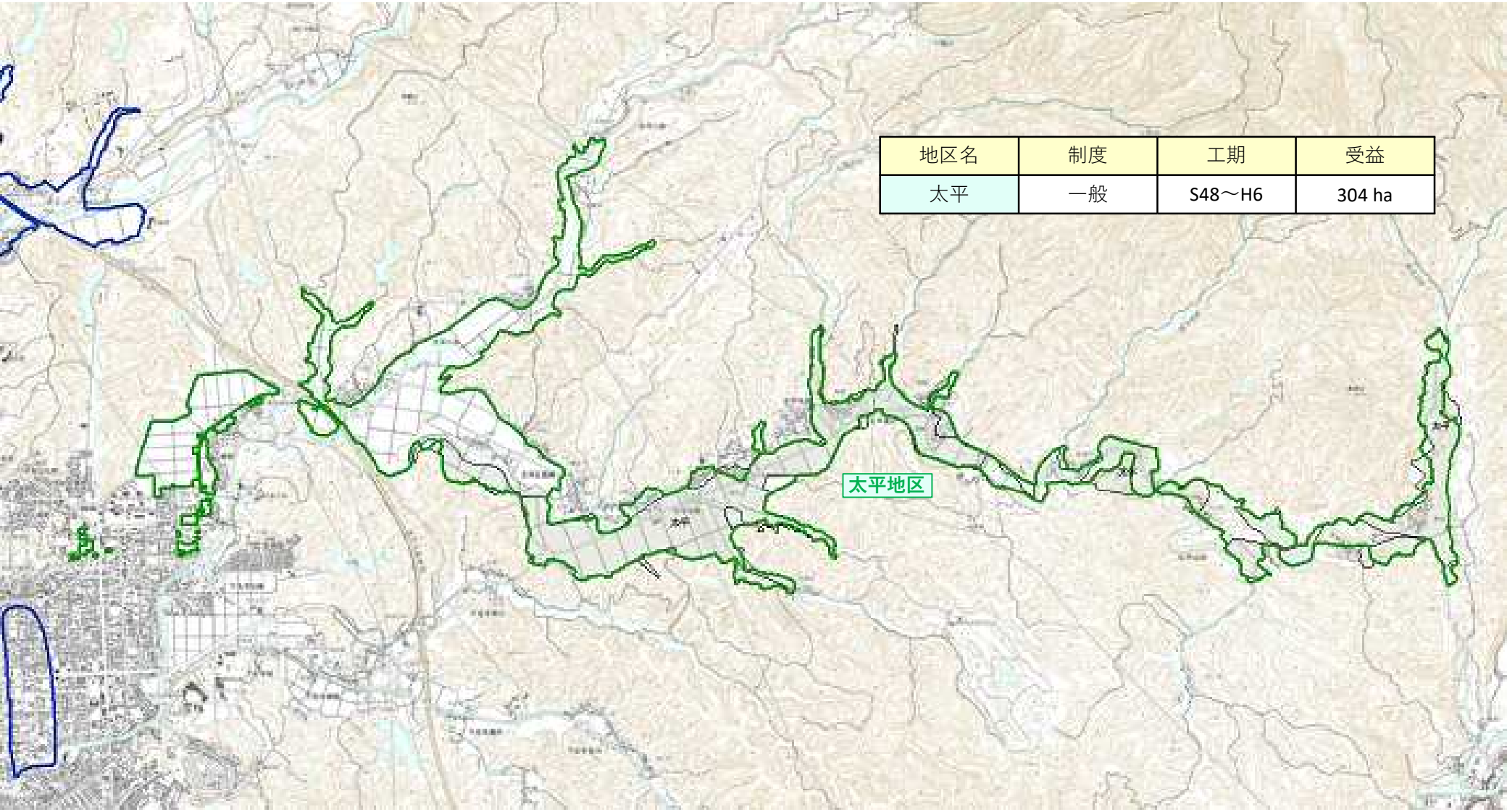
施設の維持保全　多面的機能の発揮に向けた取組

- 土地改良区受益地の大部分を「孫左衛門組織組合広域協定」がカバー。
- 土地改良区が構成員となり、事務受託している。



ほ場整備　太平川上流は昭和～平成期にほ場整備され、土地改良区に編入。

■ 太平川上流域は昭和～平成にかけてほ場整備事業「太平地区」が実施され、土地改良区受益に編入。



地区名	制度	工期	受益
太平	一般	S48～H6	304 ha

土地改良区の沿革・由来

当土地改良区の起源は、古く文久２年（1862年）、今から151年前まで遡る。

当時、林業・製炭による森林濫伐等により干害常習地帯であった。

それを見かねた地域の酒麹製造を生業とする鎌田孫左衛門（寛政5年～明治元年）が、一念発起して、壮大な事業を思い立ち、干害常習地帯である太平、柳田、赤沼、広面地区を救うためには、太平川の水を割いて流す水路の開削をするしかないと決意するのである。

安政2年(1855）、翁すでに63歳のことである。地方に測量の術を知る者のなかった当時約7年をかけて踏査し、精密な測量・設計書を完成し、ついに起工するのである。

文久2年(1862）、70歳のときである。人生50年と言われた当時、頭の下がる思いである。数カ所の大樋の架設や洪水の氾濫を防ぐ大小の水門の設置など作業は困難を極めた。中でもずい道掘削は、大小８カ所、延長300間(約550ｍ)に及び、当時の粗末な道具を使い、全て人手で行われ過酷であった。翁は長子、孫をも動員して指揮監督に当たらせ、家事は一切顧みる暇がなかった2年3ヶ月間、元治元年(1864)6月ついに難工事は完成するのである。

工事に注いだ人夫は延べ数万人、酒麹製造を生業として得た家産は傾くほど注ぎ込まれた。やがて翁は、水路がしっかりと役目を果たしていることを見届けた4年後、享年75歳で生涯を遂げた。大正13年6月より、村民は孫左衛門翁の偉業をたたえる頌徳碑を村役場の前に建て、以後、9月に慰霊祭を行って遺徳をしのんでいる。

翁の名前を忘れることのないよう土地改良区の名前に孫左衛門堰と命名し、現在に至っている。

（2014年語り部交流会「三堰物語」より）

（2014年語り部交流会「三堰物語」より）